

城崎国際アートセンター館長及び芸術監督の交代について

「城崎国際アートセンター（以下、KIAC という。）」は、館長及び芸術監督を交代いたしますので、お知らせいたします。館長及び芸術監督の就任者と交代経緯は、次のとおりです。

1 就任者

(1) 館長

しが れいこ
志賀 玲子 （会計年度任用職員）

(2) 芸術監督

いちハラ さとこ
市原 佐都子 （特別職非常勤職員）

2 就任日

2021年4月1日

3 経緯

館長及び芸術監督の交代経緯は、次のとおりです。

- (1) 豊岡市が進める「深さをもった演劇のまちづくり」は、①城崎国際アートセンター（KIAC）の世界的な地位の獲得、②KIAC 芸術監督でもある平田オリザ氏の移住と劇団青年団の活動拠点の移転、③豊岡演劇祭の成功裡のスタート、④「芸術文化観光専門職大学」の4月開校予定等に見られるとおり、「小さな世界都市-Local & Global City-」実現のためのエンジンとして、着実に成果を上げつつある。
- (2) 他方で、「深さをもった演劇のまちづくり」及び豊岡における芸術活動を牽引する主要ポストである市長、市芸術文化参与、KIAC 館長、同芸術監督、芸術文化観光専門職大学学長予定者は、すべて男性で占められており、多様性の観点から課題となっていた。
- (3) このような状況を踏まえ、昨年秋、田口幹也・現 KIAC 館長から市長に対し、「芸術活動に関する主要プレーヤーの多様性を確保し、豊岡における芸術活動がより多彩に展開されるよう、KIAC 館長は女性から選ぶべきである。適任者はあるはず。」との提言がなされた。
- (4) 「小さな世界都市」を目指す豊岡市は、市の施策をジェンダー視点で見直す取組みを進めている。その方向性に合致するとして、市として、同館長の提言を受け入れることにした。
- (5) 人選については、KIAC の状況、演劇界及びアートマネジメントに詳しい平田オリザ氏に推薦を依頼した。
- (6) その際、平田氏から、「2021年4月に芸術文化観光専門職大学学長に就任する予定で

あることから、3月末をもってKIAC芸術監督を退きたい。」との申出があった。

- (7) そこで、後任の芸術監督についても、平田氏に推薦を依頼した。
- (8) その結果、館長には志賀玲子氏、芸術監督には市原佐都子氏が最もふさわしいとの推薦を受け、KIACの現場とも協議した結果、市としても両氏が適任であると判断し、それぞれご本人に打診したところ、幸いお二人から快諾をいただくことができた。

4 就任者の経歴等

(1) 志賀 玲子

舞台芸術プロデューサー、介護福祉士

1962年大阪府生まれ。

1985年神戸女学院大学卒業後、一般企業勤務を経て、演劇制作事務所設立。1989年「ヨコハマアートウェーブ89」(横浜市主催)事務局スタッフを皮切りにコンテンポラリーダンスを中心とする舞台芸術企画制作者として、兵庫県伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー、びわ湖ホール「夏のフェスティバル」プロデューサー、(一財)地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネイター、大阪大学コミュニケーション・デザインセンター特任教授を歴任。兵庫県立ピッコロ演劇学校1期生。

2007年からALS(筋萎縮性側索硬化症)を発症した友人の在宅独居生活「ALS-Dプロジェクト」をコーディネート、介護にもあたる。「スペースALS-D」と名付けたダンススタジオを併設した京町家で、ダンサー等の友人がヘルパーの資格を取り介護にあたる暮らしは、首都圏外で初の24時間他人介護による在宅独居実現として、新聞、TVなどの取材多数。

(2) 市原 佐都子

劇作家・演出家・小説家。

1988年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011年より劇団Q始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚でとらえた劇作、演出を行う。2011年、戯曲『虫』にて第11回AAF戯曲賞受賞。2017年『毛美子不毛話』が第61回岸田國土戯曲賞最終候補となる。2019年に初の小説集『マミトの天使』を出版。同年『バックスの信女ーホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演。同作にて第64回岸田國土戯曲賞受賞。公益財団法人セゾン文化財団セゾン・フェロー。

2019年1月アーティスト・イン・レジデンス事業に採択されKIACで滞在を行う。2020年『バックスの信女ーホルスタインの雌』で豊岡演劇祭に参加。

《本件に関する問い合わせ先》

城崎国際アートセンター 担当：藤原 TEL 0796-32-3888

休館日(火曜日)の問い合わせ先

豊岡市役所大交流課 担当：谷口・和田 TEL 0796-21-9016